

## 飛鳥資料館 展示品紹介 「石造露盤石 定林寺出土」

飛鳥資料館の第一展示室では、昨年度から定林寺の露盤石を展示しています。露盤とは、屋根の頂部にのせる方形の平らな台です。現存する塔の露盤はほとんどが金属製ですが、飛鳥時代には石製のものがつくられました。

定林寺は明日香村立部にある7世紀前半に創建された寺院です。現在の本堂の西側に、飛鳥時代の堂塔の跡が残っています。

定林寺の露盤石は、兵庫県高砂市で採れた竜山石（流紋岩質凝灰岩）でつくられています。竜山石は二上山の凝灰岩等と比べると加工が難しい硬質な石です。飛鳥では、飛鳥大仏の台座や山田寺金堂の礼拝石等に使われました。

展示している定林寺露盤石は半分近くが欠損していますが、それでも大人4人がかりで苦勞しながら移動させて展示しました。重量感ある露盤石から、飛鳥時代の塔の姿や、当時の建築技術に思いをさせてみて下さい。（飛鳥資料館 西田 紀子）



定林寺の露盤石

開館時間：9：00～16：30（入館は16：00まで）／休館日：月曜休館（月曜が休日の場合は翌平日）

ホームページ： <https://www.nabunken.go.jp/asuka/> お問い合わせ： ☎ 0744-54-3561



編集 「奈文研ニュース」 編集委員会  
発行 奈良文化財研究所 <https://www.nabunken.go.jp>  
Eメール [koho\\_nabunken@nich.go.jp](mailto:koho_nabunken@nich.go.jp)  
発行年月 2021年3月